



この度、ループホールにて展覧会「セメントと手紙」を開催致します。

この展覧会は「hanage」の第一弾企画です。

\*「hanage」は、労働者や日々のたわいもないこと、を連想する語として名付けられた、青木真莉子、秋山幸、戸田祥子からなるグループです。

LOOP HOLE 10周年記念

# セメントと手紙

Cement and Letter

2015年11月5日(木)～11月22日(日)

オープン時間：木・金 14:00-18:00 / 土・日 14:00-20:00 ※月・火・水休み

Opening Party: 11月7日(土) 18:00-20:00

会期中にイベント開催予定あり 詳しくは facebook にて

[www.facebook.com/hellohanage](http://www.facebook.com/hellohanage)

企画「hanage」// 出品作家 青木真莉子、秋山幸、戸田祥子 // 会場：ループホール

LOOP HOLE 〒183-0022 東京都府中市宮西町 1-15-13 <http://studioloophole.com/>

tel: 042-401-1633 // email: [loop@loophole.jp](mailto:loop@loophole.jp)

\*\*\*

ビデオを撮る、スイッチを押す、絡まった洗濯物をほぐす、本を読む、満員電車に乗る、メールを返信する、お茶を出す、アイデアを出す、支払いをする、絵具を混ぜ合わせる、鍋をかき混ぜる、ゴミを捨てる、皿を洗う、おはようございますとお疲れさまですを言う、意見を述べる、作品を見る、解説を読む、ふとんを干す、国会中継を見る、鉛筆を走らせる、作品を作る、仕事をする、家事をする、展覧会をする。

\*\*\*

作品を作る身体は、報酬に直接つながらないものも含め、たくさんの労働をします。

労働の中から作品ができるのか、作品をつくるために労働があるのか、創造はどこから始まるのか。

作品の背後にある様々な出来事、行為、会話、は作品を作ることと地続きな場合もあれば、意識的に切り離して対処している時間もあるのが正直なところです。この展覧会では、どこから制作が始まるのかに焦点をあて、労働し、思考する私たちの身体が粉々になって練り込まれたような作品をめざします。

この企画は葉山嘉樹著「セメント樽の中の手紙」という短い小説から発想されました。

仕事中不慮の事故にて機械に巻き込まれセメントの粉になってしまった夫。セメントの行き先を案ずる妻は、セメントとなった夫が入った樽に手紙を忍ばせます。ひとりの労働者が仕事にその手紙を見つけ、複雑な思いで自分の労働環境や生活を振り返るといふ、ホラーでシュールな1926年のプロレタリア小説です。

手紙が、セメントを異様なものへと変容させ様々な事柄を浮き上がらせる、その鮮やかさをお手本に、三人がルールを設定した中で作品を作ったり、共同で制作した映像作品を発表する予定です。

ぜひとも高覧ください。

青空文庫（「セメント樽の中の手紙」全文）

[http://www.aozora.gr.jp/cards/000031/files/228\\_21664.html](http://www.aozora.gr.jp/cards/000031/files/228_21664.html)

## 作家紹介



船頭さん / Photo / 2015

### 青木 真莉子 Marico Aoki

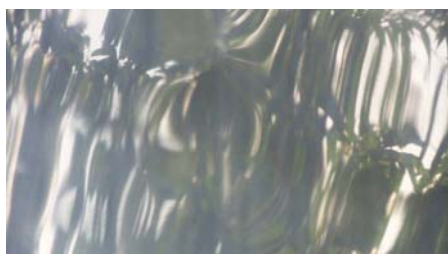
1985年、埼玉県生まれ。2012年、東京造形大学大学院を修了。儀式的な映像を主に、写真・立体・絵画など様々なメディアで作品を制作。全ての生物、無機物に意識・魂が宿り、みな独自の時間・次元を有した世界を持っていると考えます。その考えを元に、複数の魂が有する独立した独自の世界が共存している世界を想像させる作品を作ろうとしています。主な展覧会に「仮想のコミュニティアジア黄金町パザール 2014」(神奈川 / 2014)、「TWSemerging 2014 Shining voice」(TWS 渋谷 / 2014)、「対馬アートファンタジア」(対馬 / 長崎 / 2015)がある。



フルーツサンセット / Acrylic, Oil on canvas  
72.7×91.0cm / 2015

### 秋山 幸 Miyuki Akiyama

1980年、岡山県生まれ。2006年、武蔵野美術大学大学院美術専攻油絵コースを修了。主に風景や静物、幾何学模様などをモチーフとした絵を制作。物の重力が定まらないような空間作りや、壁紙や図鑑や雑誌などの俯瞰構図から思考した絵を描いている。近作では実際に経験した旅行の記録を、全く関係のない図形やイメージの断片と入れ子状にした絵作りに取り組んでいる。主な個展に「テーブルの上、バナナ」(switch point / 東京 / 2015)、「密林の絨毯」(JIKKA / 東京 / 2014)、「project N 52 / 秋山幸展」(東京オペラシティアートギャラリー 4F コリドール / 東京 / 2013)などがある。



渦 / HD Video 6分14秒 / 2015

### 戸田 祥子 Shoko Toda

1981年、東京都生まれ。2006年、東京芸術大学大学院美術研究科を修了。ブレやボケなどを用いた不安定で情緒的な映像や、透明感、浮遊感のある立体などを制作している。空間、風景、天候、や様々な自然現象などをモチーフに、個人的な感覚と共有のあいだで変形する世界を作品にしようとしている。主な個展に、「地理に、リズム」(3331gallery / 東京 / 2011)、主なグループ展に、「引込線 2015」(旧所沢市立第2学校給食センター / 所沢 / 2015)、「瀬戸内国際芸術祭 2013」(海洋記念館内武道場 / 粟島 香川 / 2013)、などがある。